

令和5年度下水道作品コンクール

入賞作品集

作文の部

ポスターの部

書道の部

公益財団法人 神奈川県下水道公社

はじめに

下水道作品コンクールに入賞された皆さんおめでとうございます。

このコンクールは、小学校で初めて下水道の勉強をする相模川と酒匂川の流域下水道につながっている市町の4年生を対象に、作文・ポスター・書道の作品づくりを通じ、皆さんの日々の生活を支える下水道や自然環境のことを考え、知っていただくための取り組みとして毎年実施し、今年で39回目を迎えます。

今年度は、3,456点もの作品を応募いただき、いずれも力作ぞろいでした。その中から、選考委員の皆様にも最優秀賞3点、優秀賞9点、入賞58点の合計70点を選んでいただき、入賞作品集としてとりまとめました。皆さんが下水道について大変よく勉強され、環境への優しい思いや環境を良くするための取り組みをしたいという気持ちを感じられ、大変うれしく思いました。

また、児童の作品表彰に加え、下水道のPRに貢献いただいた小学校を表彰する学校賞として、茅ヶ崎市立西浜小学校と小田原市立片浦小学校を選ばせていただきました。

下水道は、家庭や工場などから流される汚れた水を元のきれいな水にして川や海に帰すことで、大切な自然環境を守っています。また、大雨の時には、道路などに降った雨水を川や海に運び、家や道路を浸水から守っています。さらには、大規模な地震や集中豪雨などの災害時においても、みなさんの快適な生活環境を守っていくため、下水道はしっかりと機能していかなければなりません。このように下水道は、自然環境や私たちの暮らしを守る大切な役割を担っています。

そこで、公益財団法人神奈川県下水道公社は、下水道の果たしている役割や重要性について、多くの方に知っていただき理解を深めていただくために様々な取り組みを行っています。特に未来を担う小学生の皆さんには、このコンクールが下水道の大切さについて自分たちのこととして考え、行動するきっかけとなってもらいたいと思っています。

最後に数多くの作品の応募をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。また、担任の先生方、保護者の皆様、そして市町の担当者の方々、さらには審査をいただきました皆様方のご指導、ご協力に深く感謝いたします。

公益財団法人神奈川県下水道公社
理事長 筒浦 浩久



下水道作品コンクール 入賞者一覧

作文の部 (入賞者数10人)

(敬称略)

最優秀賞 (1)	開成町立開成小学校	國 米 心 華 …………… 6
優 秀 賞 (3)	小田原市立富士見小学校	児 玉 大 晴 …………… 8
	秦野市立北小学校	桐 山 寛 都 …………… 9
	厚木市立厚木第二小学校	齊 藤 誠 史 …………… 10
入 賞 (6)	小田原市立片浦小学校	狩 野 琴 波 …………… 11
	茅ヶ崎市立鶴嶺小学校	井 上 凜 音 …………… 12
	茅ヶ崎市立円蔵小学校	阿 部 莉央奈 …………… 13
	にのみや学園 二宮町立二宮小学校	小 林 美 月 …………… 14
	開成町立開成小学校	弘 中 壮 亮 …………… 15
	開成町立開成小学校	三 浦 心 渚 …………… 16

ポスターの部 (入賞者数20人)

(敬称略)

最優秀賞 (1)	海老名市立大谷小学校	常 行 彩 愛	18
優 秀 賞 (3)	相模原市立旭小学校	高 嶺 彩	19
	藤沢市立鵜洋小学校	石 中 亜莉咲	20
	茅ヶ崎市立松浪小学校	皆良田 洵	21
入 賞 (16)	藤沢市立村岡小学校	坂 井 理菜子	22
	藤沢市立天神小学校	鈴 木 紗 花	22
	小田原市立三の丸小学校	渡 辺 梓	22
	小田原市立芦子小学校	柴 田 雄 悟	22
	小田原市立下中小学校	佐々木 ひなた	23
	厚木市立厚木小学校	辻 本 陽太郎	23
	厚木市立厚木第二小学校	久 保 琉乃介	23
	厚木市立厚木第二小学校	加 藤 里 彩	23
	厚木市立上依知小学校	細 山 明 歩	24
	伊勢原市立比々多小学校	荒 川 愛 桜	24
	海老名市立杉本小学校	本 郷 紗 綾	24
	海老名市立上星小学校	永 瀬 太 基	24
	座間市立東原小学校	古 賀 美 藍	25
	南足柄市立福沢小学校	瀬 戸 聖 雅	25
	寒川町立小谷小学校	川 辺 咲 良	25
	山北町立川村小学校	江 口 真 心	25

書道の部 (入賞者数40人)

(敬称略)

最優秀賞 (1)	秦野市立北小学校	積山 樹	27
優秀賞 (3)	茅ヶ崎市立室田小学校	増田 もあな	28
	秦野市立本町小学校	増西 華乃貴	29
	座間市立栗原小学校	杉山 もあな	30
入賞 (36)	相模原市立橋本小学校	平井 美都	31
	相模原市立南大野小学校	小府 葵	31
	平塚市立港小学校	小府 暖	31
	藤沢市立浜見小学校	見上 蒼己	31
	藤沢市立亀井野小学校	見上 夢音	32
	小田原市立山王小学校	石太 花美	32
	小田原市立国府津小学校	太菊 綾	32
	小田原市立国府津小学校	綾平 野橋	32
	小田原市立豊川小学校	高佐 藤	33
	小田原市立矢作小学校	高佐 藤	33
	小田原市立矢作小学校	佐男 澤	33
	茅ヶ崎市立室田小学校	佐男 藤	33
	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	廣吉 田村	34
	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	宇田 川	34
	秦野市立北小学校	星野 香	34
	秦野市立北小学校	星野 香	34
	秦野市立北小学校	河原 中	35
	秦野市立東小学校	河原 中	35
	厚木市立荻野小学校	高齋 渡	35
	厚木市立三田小学校	安西 杉	35
	伊勢原市立比々多小学校	居院 山	36
	海老名市立杉本小学校	浦沼 田	36
	座間市立立野台小学校	田宮 本	36
	南足柄市立南足柄小学校	田宮 本	36
	南足柄市立向田小学校	成露 井	37
	綾瀬市立天台小学校	西杉 蓮	37
	寒川町立旭小学校	友相 小	37
	大磯町立国府小学校	杉内 成	37
	にのみや学園	蓮友 相	37
	二宮町立二宮小学校	小杉 内	38
	中井町立井ノ口小学校	成露 井	38
	大井町立上大井小学校	山浦 沼	38
	大井町立上大井小学校	田宮 本	38
	松田町立松田小学校	澤木 上	38
	山北町立川村小学校	成露 井	39
	開成町立開成小学校	成露 井	39
愛川町立中津小学校	成露 井	39	

令和5年度下水道作品コンクール審査委員

(審査委員構成)

総括

公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部

支部長 井藤直美

作文

元川崎市立小学校長

元川崎市小学校国語研究会会長

白井達夫

ポスター

元横浜市小学校図画工作研究会会長

元大学教授 (現) 版画家

佐々木 孝

公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部

専任幹事 島田雅幸

書道

元横浜市立小学校教諭

(現) 書家

齋藤菁芳
(喜久恵)

公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部

常任幹事 手塚高弘

最優秀賞 (1点)

「きれいな川にするために」

最優秀賞

開成町立開成小学校

こくまい

國米

こはな

心華

酒匂水再生センターで、下水道の見学をしました。私は、下水道についてぜんぜん知らなかったけど、みんなが使った水をきれいにするところだとわかりました。水がきれいになるためには、私たちの使った水が下水管を通過して、水再生センターに行き、ちんさ池、最初ちんでん池、反応タンク、最終ちんでん池、消毒しせつを通らないといけないそうです。じっさいに、しせつを歩いたとき、とても広いなと感じました。たくさんの水をきれいにするためには、こんなに広い場所が必要なのだと思いました。はじめに見せてもらった最初ちんでん池や、ちんさ池では、ごみのようにくさいにおいがしたけど、最終ちんでん池では、せんたく機でせんたくするときみたいなにおいがして、きれいになると、色もにおいもこんなにちがうんだな、と思いました。

そして、水をきれいにするために、はたらく人達が交代で、24時間きかいを管理していることも知りました。たいへんだけど、みんなにとって大切な仕事をしていて、と思いました。びせいぶつがよごれを食べていることも教えてもらいました。けんびきょうで、じっさいにびせいぶつを見ました。びせいぶつは、ふつうには見えないけど、けんびきょうで見ると、すばやく動いていて、とてもかわいかったです。わたしは、「びせいぶつは何種類いますか。」と質問しました。「けんびきょうで見えるものは、千種類くらいだけど、見えないものを入れると、十億種類くらいいるよ。」と教えてもらいました。わたしが思うより、とても多くて、目には見えないけど、すごいのはたらきをしていると感じました。

また、水がよごれているかどうかのじっけんもしました。放流水と同じものはむらさき色になって、魚が生きられるくらいきれいな水でした。わたしの大好きなサイダーをうすめたものは、黄緑色で、よごれた水で魚には悪いことがわかりました。サイダーをぜったいに川に流してはいけないし、のこさないでのもうと思いました。

わたしの家の前に小さな川があります。そこには、かにや小さな魚がいて、きれいな水なんだということが分かります。でも、ジュースのかんや、ペットボトルのごみがういているときがあります。クリーンデーの日には、みんなでごみをとって、川をきれいにしています。川をきれいにするためにがんばっている人がいることがわかりました。わたしも、クリーンデーの日にはなるべくさんかして、川のごみをとって、かにや魚がいつまでも住めるようにしたいと思いました。

昔は、水再生センターがなくても、川がきれいだったそうです。それは、生活の中で出たごみをひりょうにするなどして、再利用して、今よりごみが少なかったからです。でも、今はわたしたちがよごした水が多くて、水再生センターの人たちや、ちいきの人達がきれいな川にするためにがんばっていることがわかりました。お母さんは、フライドポテトやからあげを作ったときに、使った油を、かためてすてていて、流さないようしています。それは、油をそのまま流すと、下水道につまってしまうからそうやってすてているのだそうです。わたしは、目玉焼きを作ったときに油が多すぎると、お父さんに注意されました。料理をするときには、油の量を調整して入れて、油をむだにしないで、水に流さないようにしたいです。わたしはまだ10才だけど、川をよごさないために、わたしにできることをこれからも考えていきたいです。

優秀賞 (3点)

「下水道について」

優秀賞

小田原市立富士見小学校

こ だ ま た い せ い

児 玉 大 晴

ぼくは、土日に野球をやっています。野球で着た練習着やユニフォームは、いつも砂ぼこりやどろでよごれています。それを、外ではたいた後、お母さんが、ぼく達が入った後ののこり湯をバケツに入れて、その中でこすってあらっています。せんたくの時にも、お風呂ののこり湯をくみ出してせんたくをしています。ぼくは、なぜ、じゃ口をひねって新しいお水かお湯を使わないのだろうかと思っていました。お母さんに、その事を聞くと、お母さんは、「もったいないでしょ。むだにお水やお湯は使っちゃいけないよ。しげんを大切にしなきゃ。」と言いました。その時のぼくは、「ふうん、そうなんだ。」としか思いませんでした。

それから7月になり、社会のじゅ業で「水はどこから」という題のじゅ業を受けました。そのじゅ業で、1日に使うお水のりょうを調べたり、ぼく達がくらしの中で使っているお水がどのようにして送られているのかを学びました。また、使った後のよごれたお水はどうなるのかを学びました。

3人1家庭で、1日約450リットルのお水を使っている例が教科書にのっていました。450リットルというりょうが、どの位のりょうなのか想ぞうがつかなかったけれど、ぼくが野球で使っている大きな水とうが約2リットルなので、その大きなぼくの水とうの約225本分を考えたら、ものすごいりょうだと感じ、おどろきました。その大りょうのお水は、飲んだり料理に使ったりするよりも、お風呂やせんたくなど、よごれを落とすのに使うほうが多いということも分かりました。では、使った後のよごれた大りょうのお水はどうなるのか。そこで、下水しょ理場の出番でした。

下水しょ理場では、家庭や学校、工場などで使われたお水と、雨水が集められ、ごみやどろを取りのぞき、薬で消どくをしています。その間に、けんびきょうでしか見えないようなび生物の力をかりていることを知り、考えた人はすごいなと思いました。ここできれいにしてもらったお水は川や海に流されます。もし、下水しょ理場がなかったら、よごれたお水が川や海に流れ、川や海で生活する魚や生き物は生きていけなくなります。そして、ぼく達人間も生きていけなくなります。下水しょ理場は、よごれたお水をきれいにすること以外にも、エネルギーやしげんをつくったり、雨水をはいじよし、水がいからぼく達のくらしを守ってくれていることも学びました。

下水をなるべくへらせるように、また、下水道をなるべくきれいにしておけるように、ぼくにできることは何かを考えるべきだと思いました。まずは、水のむだ使いをしない事、食べのこしや飲みをのこしをなくす事、せっけんやシャンプーの使うりょうを最小げんにする事など、生活の中でできる事を見つけ、気をつけていきたいと思います。

この作文を書く決めてから、学校で学んだ事をふり返り、学びをふかめることができたと思います。

「みんなの水のために」

優秀賞

秦野市立北小学校

きりやま

ひろと

桐山寛都

ぼくは、夏休みに、小田原市にある下水道しょ理しせつを見学に行きました。そこでは、小田原市だけではなく、ぼくが住んでいる秦野市や松田町、中井町など近りんの町の水をしょりしていました。

下水道しょ理は、人間が使ったきたない水をきれいにして、川や海へ流すそうです。今までぼくは、使った水がどんな風になるのかをくわしく知りませんでした。

例えば、牛にゅうを1リットル1本分を流したとすると、きれいな水にするためには、25,300本分の水が必要になるそうです。ぼく達が食べたり、飲んだりしている物が、こんなに水をよごしてしまうなんて、初めて知り、とてもおどろきました。これからは、のこさなのように食べたり飲んで、流さないようにしようと思いました。

またぼくの好きなあげ物に使う油も、流してしまうと、下水かんの中でかたまり、くっついてしまい、つまる原因になるそうです。だから、お皿などに付いた油は、ペーパーなどで一度ふき取ってから、あらうなどして、流さない方法を考えようと思いました。

そして、よごれた水をきれいにするために、び生物が分かりしてくれる事を知りました。実さいに、よごれを分かりするくまむしや、コルシラ、アルケラなどをけんび鏡で見ました。ぼくは、けんび鏡でしか見えないほど小さい生き物が、人間のためにがんばって分かいてくれているなんて、申しわけないなと思いました。

また、下水道には、よごれた水のくだの他に、雨の水をながすためのくだもあるそうです。大雨がふった時に、家や道路に水があふれないようにするため、地面の下にくだが通っています。学校や公園の下にも、雨の水をためられる場所があるそうです。ぼくらの生活を守るために、見えない所にも工夫されているんだなと思いました。

土は、水をきゅうしゅうするけれど、人間が作ったアスファルトは水をきゅうしゅうしづらいので、水があふれやすくなってしまいます。アスファルトの道路は、ぼく達にとって、とてもべんりだけど、水があふれてしまう原因になってしまうのです。だから、人間の都合で、山をけすったり、まちを開発する事はしんちょうに考えないといけないと思いました。

ぼくは、生き物が大好きです。休みの日に家族と一しょに川や海へ出かけます。川には、メダカ、ナマズ、カマツカ、ドジョウなどの生き物がいます。海にも、フグやキスが泳いでいます。水は、生き物やぼく達の生活に大きく関わっています。

生き物や人間、みんながゆたかに生きていけるよう、水を大事にしていきたいと思えます。そのためには、みんな一人一人が、使った水の行方を想ぞうして、今自分にできる事を、取り組めば良いと思えます。

「ぼくの町の下水道」

優秀賞

厚木市立厚木第二小学校

さいとう

せいじ

齊藤 誠史

ぼくは、社会のじゅ業で下水道のことを学びました。もっと知りたいと思ったので、夏休みに調べてみました。

ぼくが、いつも野球をしたり、おにごっこをしているあさひ公園の下に、雨水をためるところがあることを知りました。目的は、本厚木駅しゅうへんのしん水ひがいをへらすことです。大きさは、たて27メートル、横43メートル、深さ25メートルもあります。小学校のプール約40はい分入ります。とっても深くて大きくてびっくりしました。遊んでいても水の音は気になったことはありません。

今年の3月に、厚木中央公園近くにも雨水をためるところができました。

このようにしん水ひがいをへらす工夫をして、市民や建物を守っていると思いました。

次に下水道関係の会社があることを知って見学に行きました。そこには、じっさいに使われていた下水道かんの調さ機や、本かん用テレビカメラなどがたくさんてんじしてありました。

他には、工事の練習用にとうめいなゆかがあって、その下にとうめいなはい水かんがたくさんつながっていました。トイレやせん面台などから出た水が合流して、太いはい水かんに流れるところを見れました。じっさいにそうじをする人は、はい水かんが曲がっているのが見えないけど、機かいを使ってそうじができるのはすごいなと思いました。

ごみや油などつまるものは流さないようにしないといけないと思いました。

あとは、ヘルメットをかぶって、下水道かんとんけんをしました。人生で初めて下水道かんに入るので、わくわくしました。直けい1.5メートルあって、自分の頭はちょうどつきませんでした。この中に下水がたまったらくさそうだなと思いました。

下水道かんの調さやそうじも大切だと思いました。

ぼくが住んでいる厚木市のこうきょう下水道が、今年で50年をむかえたことを知りました。

マンホールカードを知ったので、初めてもらいに行きました。1まい目は、もみじの絵です。2まい目は、厚木市の名物をあらわした小学生がかいた絵です。道を歩くときに下をよく見ると、いろいろな大きさや絵のマンホールがありました。

これから、いろいろなマンホールを見て、マンホールカードを楽しく集めたいと思いました。

下水道のことを調べて、今まで知らなかったことがありました。ぼくたちの生活の中で、下水道は、大切な役わりをしていました。これから意しきしなげらすごしていこうと思います。

入賞 (6点)

「旅する水」

入賞 かりのことは
小田原市立片浦小学校 狩野琴波

私は、社会の授業で浄水場や下水処理場の見学など、行った時に色々な話を聞きました。そして海の水がなぜなくなるのか疑問に思い水道局の方に質問したところ、「水が蒸気になって雨になるのを繰り返している」と説明があり、更に詳しく知りたいと思い調べる事にしました。

本などで調べた結果、海の水は太陽のエネルギーによりたえず蒸発するそうです。地球上では上空にいくほど気温が下がるので海水などが蒸発してできた水蒸気は氷の粒になり、上空で集まり雲になります。氷の粒が大きくなると重くなって空に浮いていられなくなり、雨になって地上にたどり着きます。その多くはいったん地中にしみこみ、やがて湧き水になって流れだします。

こうして、水は海から空へ、そして雨や雪となって地上に降り注ぎ川に流れて、もう一度海に戻るといって旅をしています。水がひとめぐりするの、計算によれば、およそ1年に14回とされています。

水道局の方が言っていた「繰り返し」とは、この水の旅のことだとわかりました。

海から出発して、再び海に戻る水の旅の中で興味を持ったのは森林を通りる過程です。

日本は、気候が温暖で降水量が多く、森が育ちやすいため、国土の67%を森林が占めるのだそうです。

よく育った森の地面は、木や草が生いしげり、その落ち葉でおおわれています。木の葉のクッションで雨はその勢いをやわらげられ地面に届きます。落ち葉の厚くしきつめられた地面が、スポンジのように雨を吸い込んでいきます。

雨はいったん地中にたくわえられ、少しずつ流れ出します。すぐに流れ出す水もありますが、何日もかかって流れ出すものや、地中深くにしみこみ、何年もかかって、ゆっくりと川へ流れ出す水もあるそうです。

そして水は、土に雨のすがたで取り込んだ汚染物質を吸着され、ろ過されます。

その結果、森林を通った水はちっ素とりんが減少するそうです。

私は、ここまで調べて、処理場の仕組みについて思い出しました。処理場も沈砂池や沈殿池を通して下水をきれいにしていました。

処理される前と後で、水の成分を調べたところ、ここでもちっ素とりんが減少していました。

この処理が不足したらどうなるのでしょうか。

海の問題の一つに赤潮があります。植物プランクトンが大量発生して、海水の色が変化した現象です。そうすると水中のさん素が減り、魚が死んでしまいます。

そして、その原因は、海水の富栄養化です。

富栄養化とは、プランクトンの栄養になるちっ素やりんが、大量に溶けている状態を言います。

ちっ素やりんは、台所などの生活排水からも出ている事を知り、私ができる事は何だろうかと考えました。

考えた結果、節水が浮かびました。なぜなら私には森や処理場のように水をろ過する事はできませんが、生活排水を減らすことはできるからです。私はこの三つをよくやります。

一つ目は、花の水やりです。この節水の仕方はバケツに雨水をため、ためた雨水を花にやる事で、じゃ口からの水は使わなくなります。

次は水着の洗たくです。私ができる事は、きちんと計って洗剤を適量にする事です。

最後は、お弁当や食器についたケチャップなどを拭き取ってから水につけることです。

これらに取り組むことで、生活排水とその汚れを減らせると思います。

このようにして、私も良い水の旅を手伝いたいです。

「下水道にやさしく」

入 賞

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校

いのうえ りおん

井 上 凜 音

私にとって下水道のイメージは「きたない水」でした。それが、やなぎ島水再生センターを見学したことで、「水をきれいにする大切な場所」だということがわかりました。

見学のはじめに、DVDを見せてもらいました。江戸時代では、下水道がなくても川の水は、自然の力だけできれいだったそうです。しかし、現代では、産業が発達し、便利になったけれど、生活排水や、工場排水が出るために、自然の力だけでは、よごれた川の水をきれいにできなくなりました。そこで、下水処理場が大切な役割をしてくれます。

また、下水処理場は、大雨でこう水になるのもふせいでくれます。

DVDを見たあと、下水がきれいになるまでの様子を見学しました。そこは、うす暗くて、ちょっとくさい所だなあ・・・と思いました。家庭や工場から流れたきた下水は、道路の下にある下水管を通して、沈砂池で大きなゴミや砂がとりのぞかれたあと、上のほうのきれいな水が、ポンプでくみ上げられ、沈殿池に送られます。沈砂池で沈まなかった小さなゴミや砂を沈ませ、水面に浮かんだカスを取りのぞきます。上から中の水の様子をのぞくことができ、この水は、まだよごれているなあと思いました。それにここは、入り口よりも下水のくさいにおいが強くなってきました。

次は、反のうタンクです。ここでは、び生物が水のよごれを食べ、水をきれいにしてくれます。底から空気を送りこむことで、び生物は元気になります。機かいや薬をつかって水をきれいにしていると思ったのに、び生物がきれいにしているなんて、とてもおどろきました。上からのぞくと、空気のアワがブクブクしているのが見えました。び生物は、スポットで一てきの中に、5千～3万びきほどいて、び生物の種類は千種類ほどいるそうです。私は、5～10種類ほどしかいないと思っていたので、おどろきました。

次は、最終沈殿池です。ここでは、び生物が水の底にしずみ、きれいな水になります。しずんだび生物は、再び反のうタンクへもどされ、活やくします。上から見ると、ふだん使っているような、どうめいできれいな水に見えました。私は、もう、そのまま海や川に流してもいいんじゃないかな？と、思いましたが、この後さらに、消毒しせつで水を消毒します。そして、海や川に水を流します。学校のプールで使っているのと同じえんそを使うそうです。

しより場の広さは、東京ドーム4つ分もあり、たくさんの機かいが使われています。それを聞いた私は、「ていでんしたら、機かいはとまってしまいますか？」不安な気持ちで係の人にしつもんしました。すると、「もしもていでんしても、大きな発電機があるので、動かすことができます。」と、教えてくれました。それを聞いた私は、ホッとしました。

365日24時間ずっと働きつづけてくれている人たちがいます。その人たちのおかげで、私たちはきれいな水が使えるのです。係の人から、お願いがありました。「水洗トイレには、トイレットペーパーなどの水にとけるもの以外は、流さないこと」「台所で、油や野菜のくずは、流さないこと」です。これらは、下水道がつまってしまいます。

私は、下水道で働いてくれている人たちへ「ありがとう」の気持ちを忘れず、水を大切に使いたいです。

「大切な水」

入 賞

茅ヶ崎市立円蔵小学校

あ

べ

りおな

阿

部

莉央奈

私は週末になると四之宮ふれあい広場に、かべ打ちテニスに行きます。そこが水再生センターである事は、前にママに聞いた事がありました。この作文を書く事でこの場所をもっとよく知ろうと思いました。

洗い物、洗たく、トイレなど、私たちの生活に必要な水は1日で1人当たり約250L使用していると言われていました。

家庭や工場で出たきたない水が浄化センターに集まり、様々な工ていを通して丸1日かけてきれいな水になります。

下水道がせいびされる以前は汚水がそのまま川や海へと流されて、悪しゅうや水質汚せんなどの環境問題を引き起こしていました。ですが、げんざいではび生物のはたらきによってよごれを食べてもらい、水をきれいにする仕組みができています、という事を知りました。この事は教科書にはのっていなかったの、びっくりしました。

ほかに、下水道はふった雨水をすみやかに川や海に流し、大雨から人々を守る役割があります。雨の多い地いきでひんぱんに生じていたひくい土地に雨水がたまる事や、あふれるひ害をおさえる事ができました。この役割の事は私は知らなかったの、知れてよかったです。

きれになった水や、量を調せつされた水は川や海に流されます。私たちが油や野菜くずを流してしまうとはい水かんや下水かんをよごして、水再生センターへの水の流れをさまたげてしまいます。なので私はフライパンの油はそのまま流さずに、新聞紙でふいてから洗って、とママにおねがいします。

24時間365日うごいていて、その中でたくさんの方が働いてくれて、私たちの生活を守っている事を知る事ができて、四之宮ふれあい広場をより身近に感じる事ができました。私たちにきれいな水をとどけてくれている水再生センターに感しゃを忘れずに生活していきたいと思いました。

社会のじゅぎょうでダムや環境事業センターの事は勉強しましたが、今回、水再生センターの事を学び、一人一人がもっと環境問題に関心を持つ事ができたらいいのにな、と思います。ほかにまだまだ環境問題はたくさんあります。地球ふっとう化の問題はすぐにかい決する事はできないかもしれませんが、みんながちょっと努力をして少しでも良くなればいいですね。私は第一歩として、流す水に気を付けて水をむだづかいしない事から始めていこうと思います。

「水がきれいになるまで」

入賞

にのみや学園 二宮町立二宮小学校

こばやし みづき

小林 美月

ふだん私達が生活の中で使っているお風呂やトイレで使用した水は、どこに流れてどのようにきれいになって川や海に流れていくのか、いつもふしぎに思っていました。

お母さんから下水処理場しせつできれいになると聞いたので、水再生センターに行って調べてみることにしました。

まず、下水道管には家や工場から流れてきた水が10メートル下にある沈砂池に集められ、大きなゴミや砂などをとりのぞきます。

次に最初沈殿池に下水をゆっくり流して水面に浮かんだカスを取りのぞいたりします。水の色は、緑色ぽくてまだ少しにごっていました。底にたまったドロは、パイプで汚泥処理しせつへ送り、焼却炉で燃やして灰にされ処分されます。

次は、反応タンクに行きび生物をまぜて空気を入れてかきまぜると、び生物が、すごく小さなよごれを食べてくれることを知りました。タンクをのぞいていたらまだ水は、にごっていました。

最後は、最終沈殿池でよごれを食べて重くなり綿のように大きなかたまりとなったび生物が水の底に沈み消毒して川や海に流れます。これが放流水です。初めのタンクの中の色とくらべると、とても透明でにおいもなく、透き通ったようにきれいでした。

水がきれいになるには、約16時間かかり、び生物が必要だと初めて知りました。び生物は肉眼で見ることができない位小さな生き物で最小で0.0005ミリから最大で1ミリの大きさと寿命は、8時間から30日位だそうです。

下水をきれいにする小さなび生物には、よく動く生物とあまり動かない生物の2種類いて、けんびきょうで観察したら、「スピロストムム」というよく動く生物を見ることができて気持ち悪いと思いましたが、じっくり観察しているとなぜかウネウネとおもしろい動きでかわいく見えてきました。

食べ物や飲み物を川や海に流すと、魚が住めないくらい川や海をよごしてしまいます。きれいな水にするには、どのくらいの水の量でうすめたら良いのか考えました。例えばカップめんの汁を1リットル流すときれいな水になるには、うすめる水の量がペットボトル1リットル約1,800本必要になり、みそ汁だと約4,000本、牛乳だと約25,300本も必要となることが分かりました。よごれた水をきれいにするには、たくさんの水を使いとても大変なことです。

きれいになった水は、水蒸気になって雲になり、雨になり、川を流れ私達の元に戻ってきます。

これからも自分で使う水を節約したり食べのこしや油などは、流さないように気をつけ、歯みがきやお風呂の水をこまめに止めたりして、たいせつに水を使わなければならないと思いました。

「くらしの水をしょ理する仕組み」

入 賞

開成町立開成小学校

ひろなか

そうすけ

弘 中 壮 亮

ぼくは、夏休みに下水道について二つの方法で勉強しました。

一つ目は、下水しょ理場の見学です。そこでは、まずアニメを見たりしょく員さんに話を聞いたりしました。それで川にはび生物がいて水が自ぜんにきれいになれるけど、今はよごれがふえてきれいになる力が足りなくなったので、下水しょ理場が作られたことや、しょり場はサッカーコート10面分の広さで6分間に学校のプール1ぱい分くらいのよごれた水が入ってくるということが分かりました。ぼくはよごれた水のりょうがとても多くておどろきました。

しょ理場の仕組みは、家庭や工場から出た下水がまず「ちんさ池」に集められ、大きなゴミやすなどを取りのぞいた後、ポンプでくみ上げて次の「最初ちんでん池」に送られます。そこでは、下水をゆっくり流して、さらに小さなゴミやすなをしずませたり、水面にうかんだカスを取りのぞいたりします。しずんだゴミやすなはおでいと言って、プレートでかき集められてまた別の場所に送られます。ここでは、そのプレートを動かすための自転車のくさりみたいな物がゆっくり回っているのを見ました。その次に、「反のうタンク」という所でび生物がよごれを食べてくれます。それには、8時間かかるそうです。その時、底から空気を送りこむとび生物は元気に役目をはたしてくれます。そしてわたのように大きなかたまりになって、しずみやすくなります。ここでは、水がゆっくり流れて水面にあわが立っているのを見ました。そして、「最終ちんでん池」という所で水をゆっくり流すと、大きくなったび生物が水の底にしずみ、きれいな水になります。しずんだび生物はふたたび反のうタンクへもどされ活やくし、よごれを食べてふえた分は最初ちんでん池のおでいと同じ場所に運ばれます。最後にきれいになった水は「消どくしせつ」という所で消どくされ、川に流されます。

この全部の工ていには14時間くらいかかるそうです。ぼくは実さいにしせつの中を歩いてすごく広いことが分かりました。このしせつがこれからも使えるように、自分が出すよごれをできるだけへらそうと思います。

二つ目は、キャンプです。ぼくがいつも行くキャンプ場では、トイレットペーパーを流さないでくださいとよびかけられています。そこでキャンプ場の人に理由を聞いてみました。

キャンプ場は山おくにあり下水かんは通っていません。だから、キャンプ場にはじょう化そうという所があるそうです。そこにはび生物がいて、しょ理場と同じように水のよごれを食べてくれます。そしてそできれいになった水は川などに流されるそうです。でもトイレットペーパーはび生物が食べないので、おでいとなってじょう化そうにたまってしまうそうです。

ぼくはいつもキャンプ場の近くにある川で遊んでいます。この川の水はつめたくて気持ちよくて好きなので、ずっときれいでいられるように、ここのルールをちゃんと守ろうと思いました。

そして自ぜんのことや下水のことを考えてくれているしょ理場の人やキャンプ場の人に感しゃしななければならないなと思いました。

「水を大切に」

入 賞

開成町立開成小学校

み う ら こ こ な

三 浦 心 渚

私たちが生きるためには水が必要です。その大切な水はどうやって作られているのでしょうか。ふしぎに思ったので調べてみました。

昔はよごれた水をそのまま川に流していました。そのため川や海によごれがひどくなり魚もすめなくなりました。

今は、トイレや台所、お風呂で使った水は下水道で下水処理場に集めてちゃんときれいにしてから川に流しています。

昔は、今とちがって下水処理場がないからよごれた水をそのまま川に流して、川や海によごれがひどくなったんだと思いました。

下水道、下水処理場はどんな役わりをしているのか調べてみました。

私たちが使った水（おすい）は地下にうめてある下水道管をとおり、下水処理場に運ばれます。下水処理場できれいにした水は、川や海にかえします。下水道管はおすいが自然にながれるようにかたむけてうめられています。

そのため、下水道管はきよりが長くなると深くなるので、とちゅうにポンプ場をつくり点検やしゅうりがしやすいようになります。

深いところは、30メートル（たて物でいうと地下8階くらい）になるところもあります。

下水処理場に運ばれたおすいは、それぞれのやくわりをもった槽をとおしてきれいになっています。

このたくさんの槽の中で、一番大切な槽は、反応タンクです。

反応タンクには、たくさんの細菌や原生動物など生物が入っているどろ活性汚泥があり、生物が生きるのに必要な空気をおくっています。

この反応タンクで、最初ちんでんちをとおったおすいが、活性汚泥とまざると生物のはたらきにより水がきれいになります。

下水処理場でさまざまな処理を行い、きれいになった水は消毒して川や海に戻されるので、身近なかんきょうを守ることになります。

最近、雨のふり方が変わってきています。集中ごう雨の年間発生数がここ数年ふえてきているほか、短時間できよく地的に大量の雨がふる「ゲリラごう雨」の発生件数も年々ふえています。市街地の雨をすみやかにはいじよし、私たちのくらしを守ることも下水道の大きな役わりです。街に雨水がたまり、しん水しないようにしてくれているのです。

下水道には流してはいけない物があります。

たとえば、ティッシュペーパー、紙おむつ、布類、木片、ガム、土砂、たばこのすいから、油、ガソリンなどです。

とくに流してはいけないのは、油、ガソリンです。油は下水道管の中で冷え固まり、管をつまらせたり処理場の働きを低下させたりします。ガソリンは、下水道管や公共ますをとかしたり、火さいやばくはつのげんいんになります。

だから、流してはいけない物をしっかりおぼえて、私たちが出来ることを、やりましょう。

そこで考えたのは、ポスターを作ることです。街にはったら、きっと心がけてくれるはずです。

水を大切にするためには、約束を守り、自分たちが出来ることを行いたいと思います。

作文の部 選評

下水道は「縁えんの下の力持ち」(人には見えないところで役に立っていること)です。ですから、それを作文に書き、読み手にわかりやすく伝えることは、とてもむずかしいことだと思います。そんな、むずかしい作文に取り組んでくださったみなさんに、心からお礼を言いたいと思います。

よせられた作文はどれもすばらしいものでしたので、賞を決めるのに苦労しました。そこでわたしは、二つのことを大切に選んで選ぶことにしました。

一つ目は、調べたことだけでなく、自分で考えたことや自分が思ったことが書かれているかということです。知ったことをそのまま書いたのでは、だれが書いても同じような作文になってしまいます。しかし、その人が知ったことにその人の感じたことや考えたことが付け加わると、その人だけの作文になります。

二つ目は、下水道の大切さが読み手に伝わってくるかということです。下水道がいかに「縁の下の力持ち」として、人々の暮らしに役立っているかが、読む人にわかりやすく、また「なるほど」と思ってもらえるように書かれているかということです。

ところで、下水道の作文にかぎりませんが、「知る」「感じる・考える」「書く」ということはこの順番に行われるわけではありません。知りながら感じたり考えたりしますし、その考えは書きながら整理されたり深まったりしていきます。書いていてあいまいなところがでてきたら調べ直すこともあるでしょう。そうすると新しいことを知ったり、今まで見過ごしていたことに気付いたりするかもしれません。そうして書き手の考えはどんどん深まり、作文もその人らしいものになっていきます。

今回も、そのような作文がたくさん集まりました。

まずは、これを読んでくれたみなさんが、一つ一つの作品のよさを感じたり考えたりしてくれることを願っています。そして、みなさんがこれからもたくさん作文を書いてくれることを、心から願っています。

元川崎市立小学校国語研究会長

白井達夫

ポスターの部

応募作品587点

最優秀賞 (1点)

最優秀賞
海老名市立大谷小学校

つねゆき さ え
常 行 彩 愛



優秀賞 (3点)

優秀賞
相模原市立旭小学校

たかみね
高嶺

あや
彩



優秀賞
藤沢市立鵜洋小学校

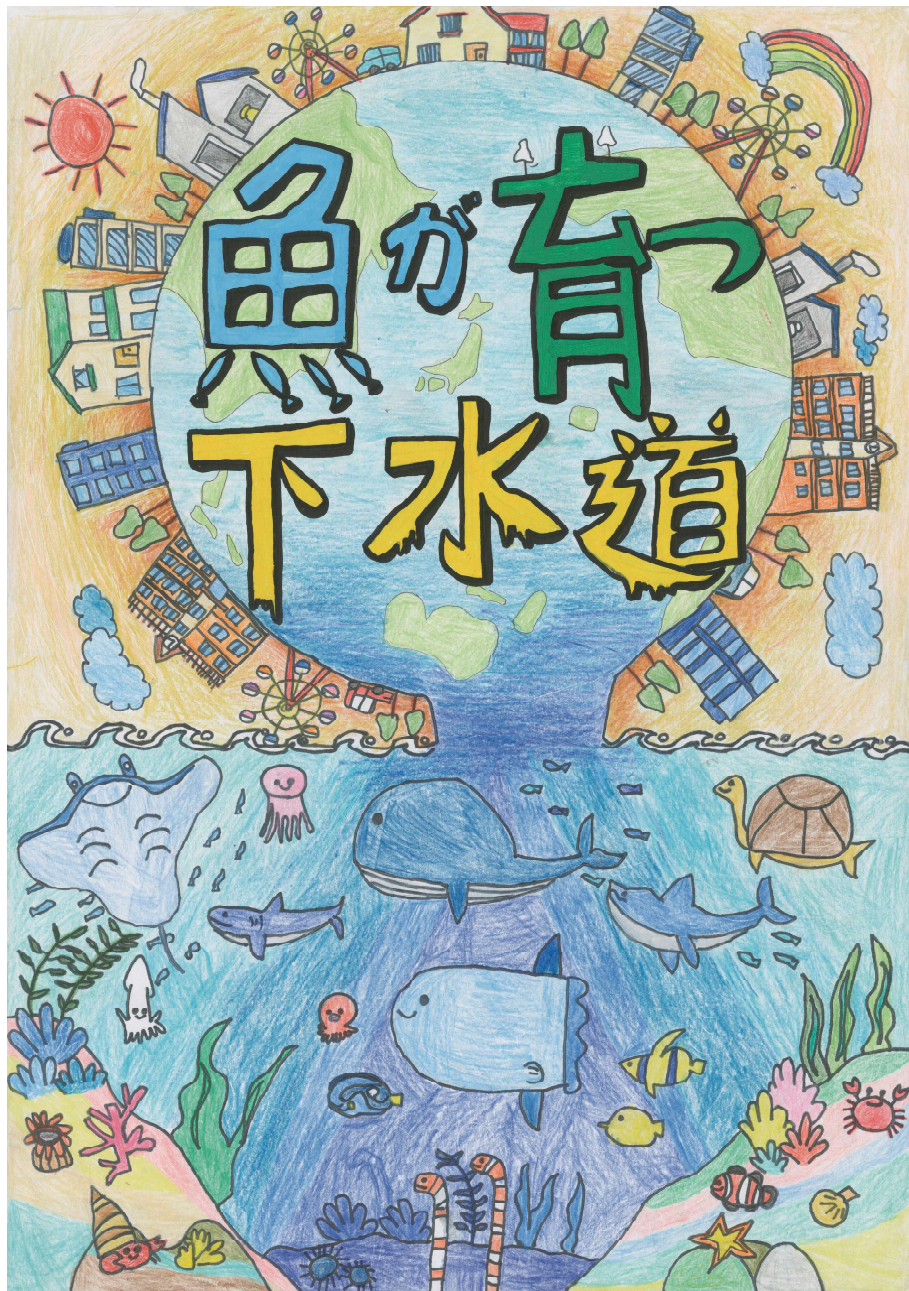
いしなか
石中
ありさ
亜莉咲



優秀賞
茅ヶ崎市立松浪小学校

かいらだ
皆良田

じゅん
洵



入賞 (16点)

入賞
藤沢市立村岡小学校

さかい りなこ
坂井 理菜子



入賞
藤沢市立天神小学校

すずき さやか
鈴木 紗花



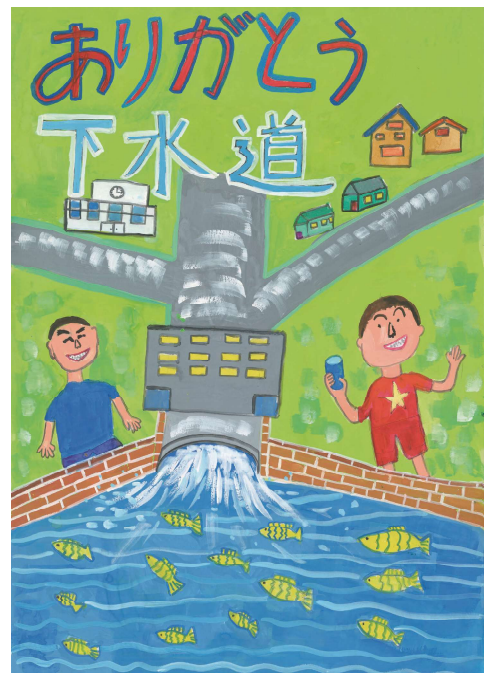
入賞
小田原市立三の丸小学校

わたなべ あずさ
渡辺 梓



入賞
小田原市立芦子小学校

しばた ゆうご
柴田 雄悟



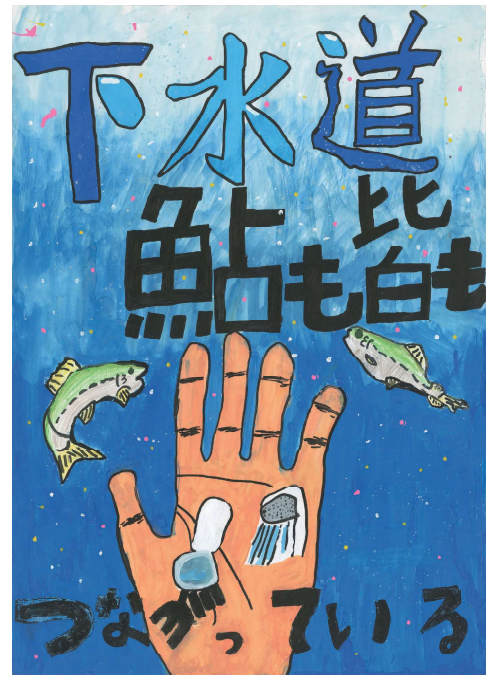
入 賞
小田原市立下中小学校

さ さ き
佐々木 ひなた



入 賞
厚木市立厚木小学校

つじもと ようたろう
辻本 陽太郎



入 賞
厚木市立厚木第二小学校

く ぼ りゅうのすけ
久保 琉乃介



入 賞
厚木市立厚木第二小学校

かとう り さ
加藤 里彩



入 賞
厚木市立上依知小学校

ほそやま あきほ
細 山 明 歩



入 賞
伊勢原市立比々多小学校

あらかわ あいさ
荒 川 愛 桜



入 賞
海老名市立杉本小学校

ほんごう さあや
本 郷 紗 綾



入 賞
海老名市立上星小学校

ながせ ひろき
永 瀬 太 基



入賞
座間市立東原小学校

こ が み ら ん
古 賀 美 藍



入賞
南足柄市立福沢小学校

せ と せい が
瀬 戸 聖 雅



入賞
寒川町立小谷小学校

か わ べ さ く ら
川 辺 咲 良



入賞
山北町立川村小学校

え ぐ ち ま こ
江 口 真 心



ポスターの部 選評

今年も、心をこめてみなさんが描いてくださったことを想像しながら、一枚一枚ていねいに見ながら選ばせていただきました。

残念なことは、色や形がすばらしい出来でしたが、文字がまちがって落選した作品もありました。

しかし、みなさんの作品を見ながら感心したことがあります。

そのひとつは、下水道の仕組みや役割をよく研究していることです。

ふたつ目は、その研究したことを自分の言葉と絵で分かりやすく伝えようとして、時間をかけてデザインしたことです。

とりわけ、最優秀賞の常行さんの作品は、先ず、「めぐる水・・・」という文字が目と心に飛び込んできました。画面の構成もバランスよく、色々な技法を使って丁寧に表現されていました。

今年、ある図画工作科の研修会で「みんなの前で、ひとりの子どもをほめることは、止めた方がいいのでは？」ということが話題になりました。

なぜならば、「ほめられない子どもがかわいそうだから」というものでした。

みなさんは、どのように思いますか？

わたしは、お互いのよさを認め合い、たたえ合う心は、とても大切だと思っています。

残念ながら落選した子どもにも、きっと、他の輝きをもっていると信じているからです。

そのような、たたえ合う心の輪を世界中に広げて欲しいと思うくらいです。

この度のコンクールは、そのようなひとつの機会だと思います。みなさんとたたえ合いながら、この作品集も手にしていただけたら幸いです。

元横浜市小学校図画工作研究会 会長

佐々木 孝

書道の部

応募作品2,798点

最優秀賞 (1点)

最優秀賞
秦野市立北小学校

つみやま
積山

いつき
樹



優秀賞 (3点)

優秀賞
茅ヶ崎市立室田小学校

ますだ
増田 もあな



優秀賞
秦野市立本町小学校

にしもと かのき
西本 華乃貴



優秀賞
座間市立栗原小学校

すぎやま
杉山 もあな



入賞 (36点)

入賞
相模原市立橋本小学校

ひらい みと
平井美都



入賞
相模原市立南大野小学校

おざわ まもる
小澤葵



入賞
平塚市立港小学校

ふかわ こはる
府川小暖



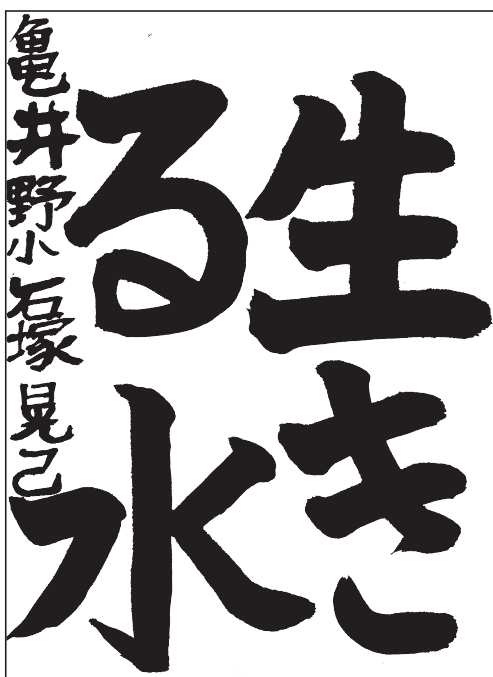
入賞
藤沢市立浜見小学校

みかみ そら
見上蒼



入賞
藤沢市立亀井野小学校

いしづか こうき
石塚 晃己



入賞
小田原市立山王小学校

おおた ゆめ
太田 結夢



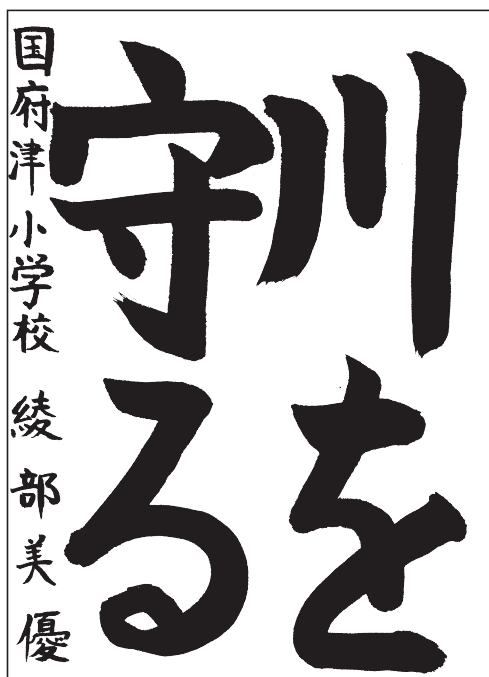
入賞
小田原市立国府津小学校

きくち かのん
菊地 花音



入賞
小田原市立国府津小学校

あやべ みゆ
綾部 美優



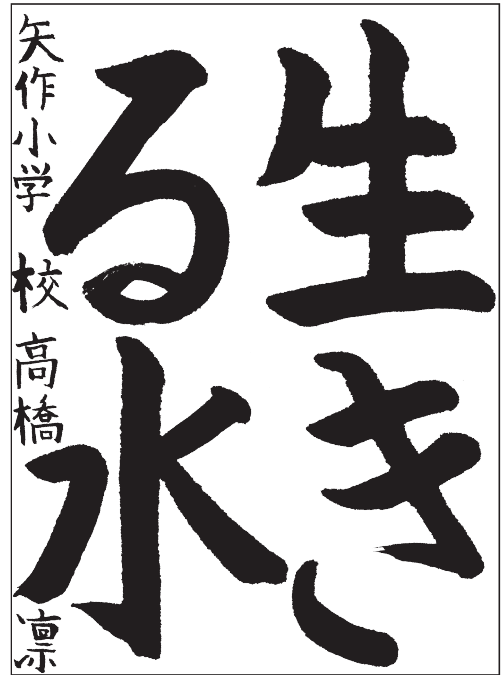
入賞
小田原市立豊川小学校

ひらの そうし
平野 颯士



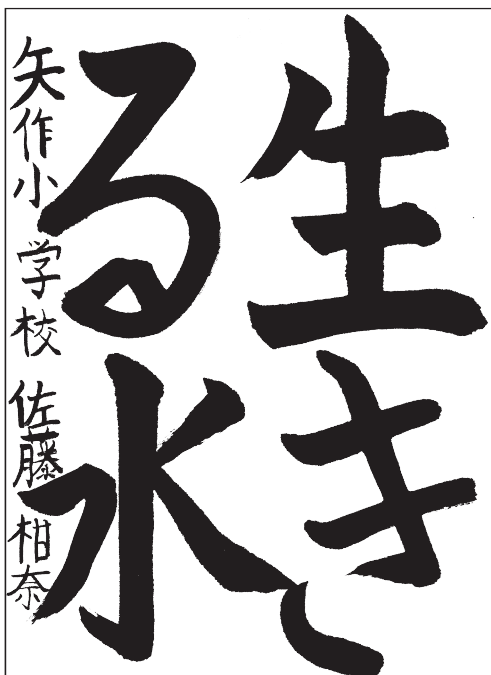
入賞
小田原市立矢作小学校

たかはし りん
高橋 凛



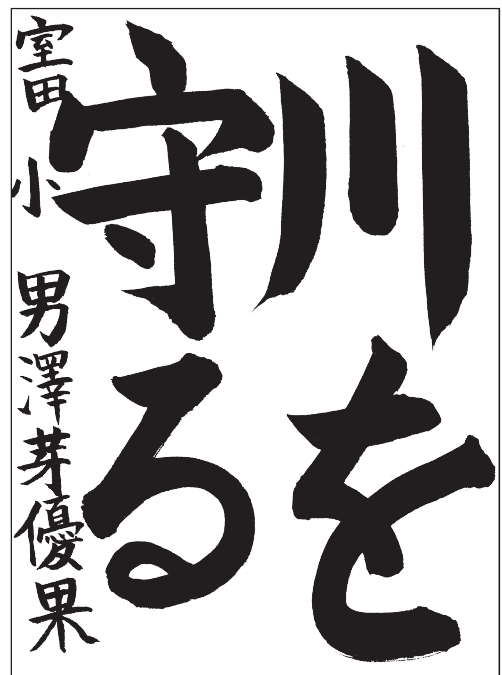
入賞
小田原市立矢作小学校

さとう かな
佐藤 柑奈



入賞
茅ヶ崎市立室田小学校

おとこざわ めゆか
男澤 芽優果



入賞
茅ヶ崎市立浜須賀小学校

さとう なつき
佐藤 菜月



入賞
茅ヶ崎市立浜須賀小学校

ひろた
廣田 こまち



入賞
秦野市立北小学校

よしむら ゆうい
吉村 友偉



入賞
秦野市立北小学校

うだがわ はるか
宇田川 遥日



入賞
秦野市立北小学校

ほしの かのん
星野 香音



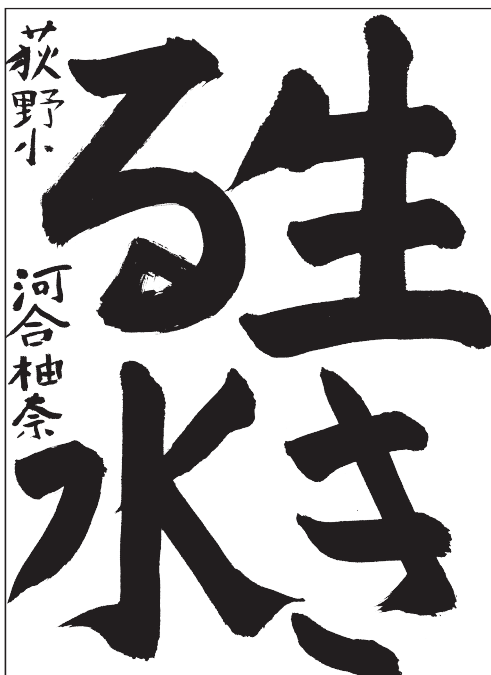
入賞
秦野市立東小学校

まちだ かずさ
町田 一紗



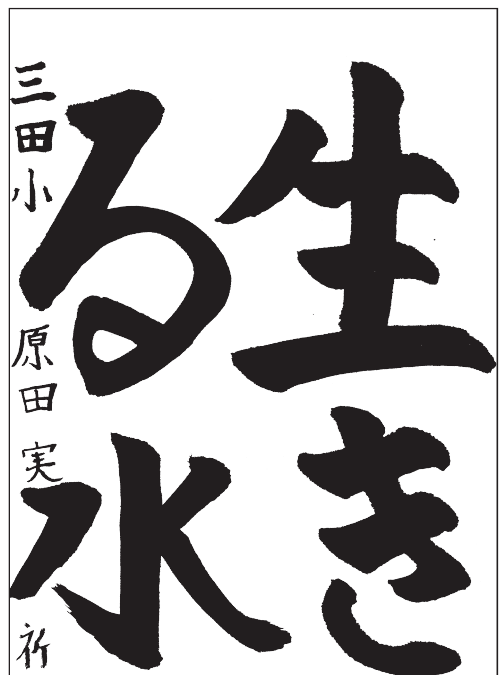
入賞
厚木市立荻野小学校

かわい ゆうな
河合 柚奈



入賞
厚木市立三田小学校

はらだ みのり
原田 実祈



入賞

伊勢原市立比々多小学校

なかむら し ま
中村志真



入賞

海老名市立杉本小学校

たかはし か ほ
高橋花帆



入賞

座間市立立野台小学校

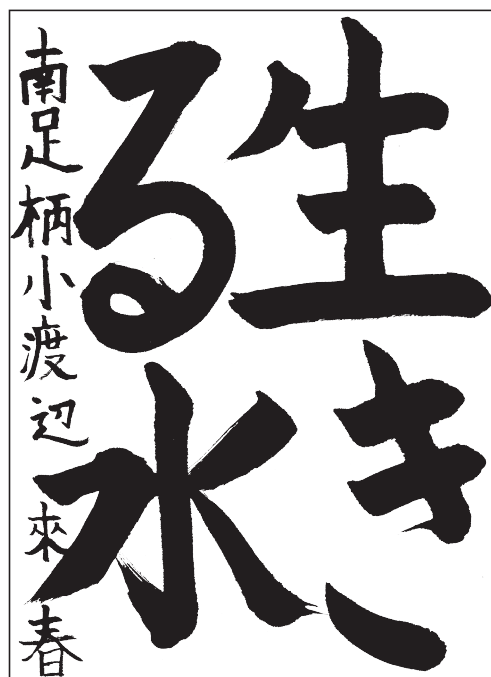
さいとう ち あ
齋藤千空



入賞

南足柄市立南足柄小学校

わたなべ こ は る
渡辺来春



入賞

南足柄市立向田小学校

あぐい りょうせい
安居院 亮成



入賞

綾瀬市立天台小学校

にしやま あおい
西山 碧依



入賞

寒川町立旭小学校

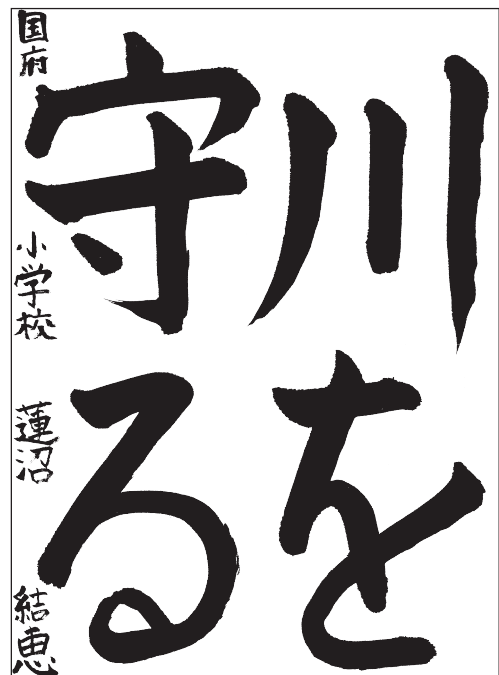
すぎうら る か
杉浦 瑠華



入賞

大磯町立国府小学校

はすぬま ゆめ
蓮沼 結恵



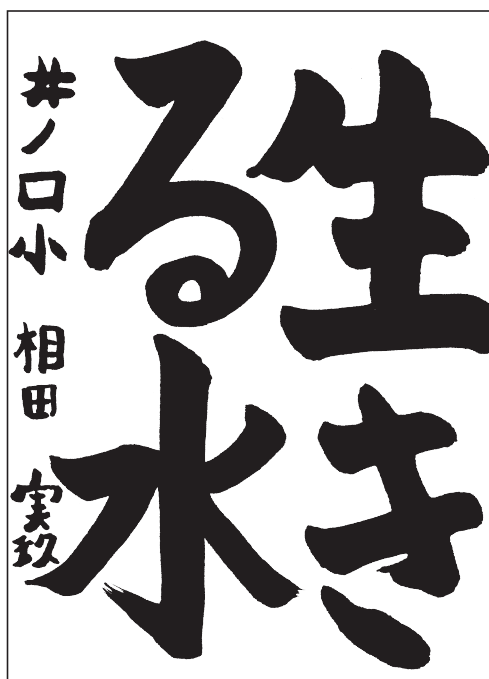
入賞
にのみや学園 二宮町立二宮小学校

ともだひまり
友田陽葵



入賞
中井町立井ノ口小学校

あいだみく
相田実玖



入賞
大井町立上大井小学校

こみやうたは
小宮詩葉



入賞
大井町立上大井小学校

すぎもと な な
杉本菜々



入賞
松田町立松田小学校

うちだ
内田 あすか



入賞
山北町立川村小学校

なりさわ あやか
成澤 史華



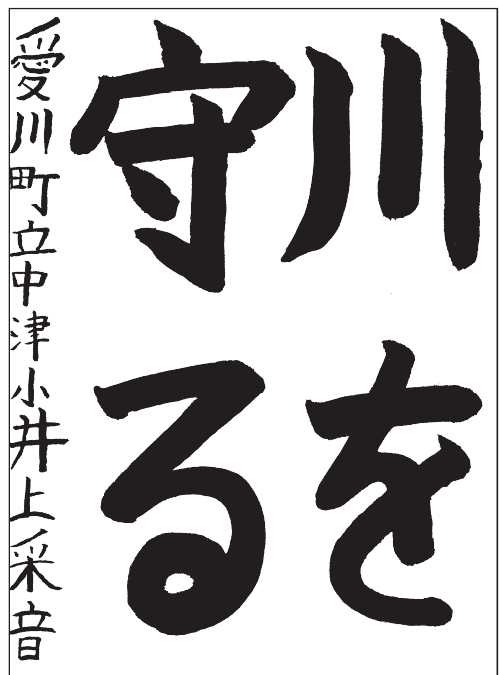
入賞
開成町立開成小学校

つゆき たくみ
露木 匠



入賞
愛川町立中津小学校

いのうえ ことね
井上 采音



書道の部 選評

コロナ禍が去ったわけではありませんが、今年は更にいろいろな分野で門を開き、活動が広がってきた様子が窺えるようになりました。下水道作品コンクール「書道部門」も、去年を上回る2,700点余りの応募がありました。とてもうれしいことです。

まず例年に倣い、一次審査を経て入賞作品を選び出していきました。選出のポイントは、

- ◎正しい文字で書けたか。
- ◎始筆・送筆・終筆はしっかり書けたか。
- ◎半紙の大きさに合わせて、バランスよく書けたか。
- ◎大きくのびのびと書けたか。
- ◎美しい線で力強く書けたか。
- ◎学校名や氏名もていねいに書けたか。

等です。

これらの項目をふまえ、ひとりひとりの作品を手にとり、時には短いことばもかけながら決断させていただきました。

文字は一点一画がいろいろな組み合わせられてできています。しかもそれらを毛筆で表現するとなると、鉛筆で書くときよりも時間をかける必要が出てきます。紙の大きさも決められています。消すことはできません。途中で筆を置くことは振り出しに戻ることであります。大いなる緊張と覚悟のようなものが必要になります。そんな体験を通して書道の作品は生まれるのです。

今年の優秀賞や最優秀賞に選ばれた作品にも、そうした緊張や覚悟を感じ取ることができました。また「これでいい」ではなく、「もっとここを直そう」「もう一度書いてみよう」という意気込み、より高い目標に近づこうとする心の強さ等も伝わってきました。とても立派な作品でした。

毛筆は日本文化の一つでもあります。大切につないでいきたいものの一つです。今回応募されたみなさんが、文字に対してより関心を深め、文字表現により興味をもっていただけましたら幸いです。

元横浜市立小学校教諭・(現)書家

齋 藤 菁 芳
(喜久恵)

審査を終えて

コロナウイルスの感染が5類となり、少しずつ、学校生活も落ち着きを取り戻してきました。さて、「下水道作品コンクール」応募して下さった皆さん、ありがとうございました。また、入賞された皆さん、おめでとうございます。相模川、酒匂川流域の小学校四年生から、作文71点、ポスター 587点、書道2,798点、合計3,456点の作品が集まりました。

今年度も「下水処理と自分たちの生活」「自然環境の保全」等に貢献する下水道の役割について、創作・表現された素晴らしい作品が多く集まりました。水資源の循環をとおして、「身近な地域の環境保護」について学び、水との向き合い方、自然に寄りそうことの大切さを感じ取ることができたことと思います。

「作文」では、水を守るために日々の生活の中で、どのように関われば良いのかが、しっかりとつづられていました。一人ひとりの思いや願いが表現された作品に感心させられるとともに、楽しく読ませていただきました。

「ポスター」では、自分たちの住む地球をポスターの中心に取り入れ、再生されていく水の仕組みを表現した作品が多くみられました。ていねいに描かれたレタリングと絵がうまく重なり、水を守ることの大切さ、下水道の果たす役割がみごとに表現されていました。

「書道」は、一点一画の結びつきを、しっかりおさえた作品が多くみられました。半紙に向かう緊張感や覚悟が作品から伝わり、最終選考に選ばれた作品には、より高い目標に向かって、取り組もうという意気込みが作品を通して感じられました。

コンクールに参加されたすべての四年生の皆さん、引き続き、下水道が私たちの生活や環境に大きな役割を持っていること、普段の生活ではあまり気づくことのない場面で、多くの人たちが下水道に関わって働いていることを思い、今後の日々の生活に活かして欲しいと思います。

結びに、ご支援していただいたご家族の皆さま、指導して下さった先生方、熱心に審査していただいた先生方に感謝と敬意を表します。

審査委員長
公益財団法人
日本教育公務員弘済会神奈川支部
支部長 井 藤 直 美

下記要領にて募集を行いました。

令和5年度下水道作品コンクール募集要領

- 1 趣 旨 小学校4年生は、授業や社会見学などを通して大切な下水道の役割を学んでいます。そこで、下水道公社では下水道知識の普及と啓発を図るため、小学校4年生を対象に下水道に関する作文・ポスター・書道の作品募集を行います。
- 2 共 催 公益財団法人神奈川県下水道公社・小田原市
- 3 協 力 神奈川県
相模川・酒匂川流域下水道事業連絡協議会（流域関連21市町）
- 4 作 品 (1) 作文の部
原 稿 原稿用紙 400字詰、3～4枚
(2) ポスターの部
用 紙 画用紙4つ切（540mm×380mm程度）
※下水道に関する標語を入れる。
(3) 書道の部
用 紙 半紙判（文字の数は3～6文字）
※下水道に関する言葉（指定の文字）を記入する。
* 作品の応募は、3部門それぞれ一人1点までの応募可とします。
- 5 作品審査委員 公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部
- 6 賞 入賞作品は最優秀賞（各1点）、優秀賞（各3点）、入賞とし、表彰状と副賞を贈呈します。
学校賞（2校）には表彰状を贈呈します。
- 7 発 表 入賞者には、令和5年11月下旬から12月上旬に、学校賞については12月下旬に市町の下水道担当課から学校を通じて通知します。
- 8 表 彰 式 令和6年2月17日（土）小田原三の丸ホールにおいて、表彰式を行います。（入賞作品集も配布します。）
- 9 作品の扱い 応募作品は小学校から市役所または町役場の下水道担当課より下水道公社へ送られ、審査を行います。なお、入賞作品については、2年間下水道公社や市町の広報活動に使用します。公社ホームページ、入賞作品集、新聞等に入賞者の学校名、氏名が入りますので了承の上、応募してください。
* 審査終了後、応募作品は原則返却しませんが、返却希望の場合は、市町単位での対応といたします。
- 10 連 絡 先 公益財団法人神奈川県下水道公社 総務部企画課
〒254-0014 平塚市四之宮四丁目19番1号
電話 0463(55)7438

『下水道 みえないところで ファインプレー』

—令和5年度 下水道推進標語—



令和5年度「学校賞」

茅ヶ崎市立西浜小学校

小田原市立片浦小学校



■令和5年度下水道作品コンクール応募状況

応募学校数	部門別応募数			総応募数
	作文の部	ポスターの部	書道の部	
151校	71点	587点	2,798点	3,456点

■応募状況の推移（過去5年間）

年 度	部門別応募数			総応募数
	作文の部	ポスターの部	書道の部	
平成29年度	104点	1,065点	3,338点	4,507点
平成30年度	122点	790点	3,524点	4,436点
令和元年度	124点	632点	3,002点	3,758点
令和3年度	80点	528点	2,482点	3,090点
令和4年度	79点	502点	2,650点	3,231点

令和5年度下水道作品コンクール 入賞作品集

令和6年2月17日発行

公益財団法人 神奈川県下水道公社

〒254-0014 平塚市四之宮四丁目19番1号

電話 0463 (55) 7211(代)

<https://www.kanagawa-swf.or.jp>
